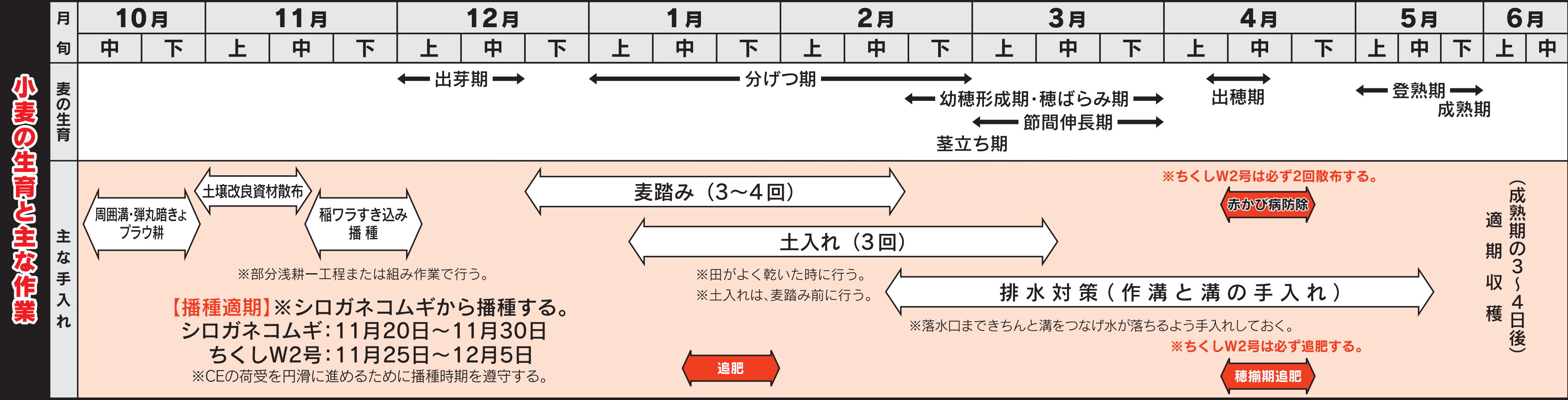


- ※収量の安定、向上:目標480kg／10a以上
- 稲ワラすき込みで地力増進
- 土壌診断を行い酸度矯正
- 部分浅耕一工程播種の実施
- ※実需者が求める品質の確保:Aランク麦づくり
- 適期の穂揃期追肥でタンパク質含有率向上
- ちくしW2号は12%以上
- ※赤かび病を出さない
- 適期防除の徹底
- ちくしW2号は2回散布



1. 品種特性表

品種名	出穂期	成熟期	穂数/㎡	耐倒伏性	穂発芽性	収量kg/10a	赤かび病耐病性
シロガネコムギ	4月4日	5月24日	556	極強	易	532	中
ちくしW2号	4月5日	5月29日	482	強	難	497	やや弱

※引用元:福岡県における主要農産物の品種特性
(シロガネコムギ:筑後分場、ちくしW2号:試験場農産部(筑紫野市吉木))

2. 土づくり

目標pH6.0～6.5

土壌改良資材散布:石灰資材散布後は耕起して土壌に混和する

土壌改良資材	散布量(10a当たり)	散布時期
炭酸苦土石灰	200kg	播種直前まで散布可
オイスターミネラル	100～200kg	
生石灰	100kg	少なくとも播種7～10日前までに散布

●土壌診断を行いましょう。酸度矯正には生石灰を散布します。

3. 種子の準備と播種

異種混入が発生すると販売が困難になるので
毎年必ず種子更新を行いましょう!!

(1)種子消毒

対象病害虫	薬 剤 名	処理方法および処理時間
ヤギシロトビムシ	クルーザー FS30	乾燥種子10kgあたり60ml種子塗沫する。
	(劇)アドマイヤー水和剤	乾燥種子10kgあたり15gを種子粉衣する。 (0.15%)
斑葉病、裸黒穂病 なまぐさ黒穂病	ベンレートTコート	乾燥種子10kgあたり50gを種子粉衣する。 (0.5%)

※クルーザーFS30は、前年度ヤギシロトビムシが多発したほ場に使用する。

(2)播種時期と播種量(ドリルまき)

品 種	播 種 適 期	播種量(10a当たり)
シロガネコムギ	11月20日～11月30日	6kg～7kg
ちくしW2号	11月25日～12月5日	※大豆あとの播種量は上記より2割程度減らす

- 深播き(5cm以上)にすると出芽が遅れ、分げつの発生も抑制されるので、覆土(播種深度)は2～3cmとする。
- 遅播(12月6日～)となった場合は、播種量を3割増しとする。

4. 施 肥

(施肥量/10a)

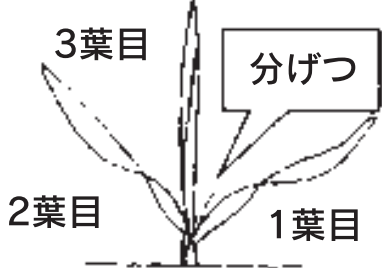
品 種 名	基肥	追肥	穂揃期追肥
シロガネコムギ (小麦)	ちくごのめぐみ 444	麦追肥一発2号	—
	40kg (大豆あとは20kg)	40kg	
ちくしW2号 (小麦)	ちくごのめぐみ 444	硬質小麦専用追肥 (3004)	尿素 4kg(水100ℓ)×2回 ※葉面散布
	40kg (大豆あとは20kg)	30kg	

- 大豆あとの場合、基肥量を半分にする。
- ちくしW2号については穂揃期追肥(出穂後7～10日)を必ず行うこと。
(2回目は、1回目の穂揃期追肥の7～10日後に行う)

5. 踏圧(麦踏み)

時期:12月下旬～2月中旬(本葉3～4枚～節間伸長開始前まで)

- 麦踏み開始時期は、本葉3～4枚の頃。(右図参照)
- 乾燥が続いて、土壌が乾燥している時の午後、茎葉水分含量の少ない時に実施する。
- 土がしまり麦の生育に悪いので、土壌が湿っている時は行わない。



6. 土入れ

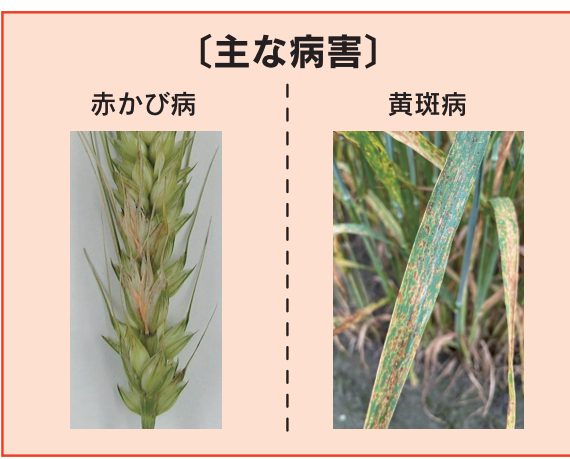
時期:1月上旬～中旬(本葉3～4枚)、2月上旬頃、3月上旬頃

- 1回目は浅く、2回目、3回目と麦の生育に伴って土入れの量を増す。
- 土入れは麦踏み前に行う。晴天続きのよく乾燥した時に行う。
- 土入れは倒伏防止・雑草防除に効果があるので必ず実施する。

7. 赤かび病防除

薬 剤 名	散 布 時 期	散布量(10a当たり)	使用回数
ミラビスフロアブル	1回目:出穂後7～10日 2回目:1回目の1週間後	2,000倍液を100ℓ	2回以内
トップジンM水和剤		1,000倍液を100ℓ	
トップジンM粉剤DL		3～4kg	

●シロガネコムギは、開花期に雨が多い場合、2回目の防除を行う。



注意:コムギ黄斑病について

- 本病は、発病初期には葉に黄褐色楕円形の小斑点を生じ、のちに拡大して灰褐色、楕円形～紡錘形の病斑となり、さらに隣接する病斑と癒合して不整形を呈し、周縁部が淡黄色となり、葉先の部分が褐色に枯れる。
- 早い年は、1月頃の茎立ち前から発生し、茎立ちとともに上位葉へと病斑が拡大する。

8. 雑 草 防 除

●:効果高い ▲:効果あり –:適用外

区分	薬 剤 名	処理時期	使用量 (10a当たり)	適 用 雑 草							使用上の留意事項
				イネ 雑草	ミチヤ ナギ	アメリカ フウロ	キン ボウゲ	ヤエム グラ	カラスノ エンドウ	タデ類	
土 壌 処 理	ラウンドアップマックスロード ザ ク サ 液 剤	播種前～ 出芽前まで	500ml	●	●	●	●	●	●	●	周囲への飛散防止を徹底する。 ※ラウンドアップマックスロードは、水50ℓ (少量散布の場合は25～50ℓ)に希釈する。
	リベレーターフロアブル	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	60～80ml	●	●	●	●	●	●	●	乳剤、粒剤ともに大雨の前後には使用しない。 播種後、できるだけ早く処理する。
	リベレーターG	播種後～麦2葉期 (雑草発生前～イネ科 雑草1葉期まで)	4～5kg	●	●	●	●	●	●	●	
茎 葉 処 理	ハーモニー細粒剤F	播種後～麦3葉期 (雑草発生前～発生始期)	4～5kg	スズメノ テッポウ ※	●	●	●	▲	●	●	ハーモニー細粒剤Fを使った場合、ハーモニー DFは使えません。ノミノフスマに効果高い。
	ハーモニーDF	播種後～ 節間伸長前	5～10g	スズメノ テッポウ ※	●	●	●	●	●	●	スズメノテッポウ、ミチヤナギ、ヤエムグラ、 カズノコグサは10g/10aを目安。 抵抗性のあるスズメノテッポウには注意。 散布後の土入れは控える。
	ハサグラン液剤	小麦の生育期 (雑草が3～6葉期までに散布する) 但し、収穫45日前まで	100～200ml	—	▲	●	●	●	▲	▲	
	エコバートフロアブル	小麦節間伸長開始前まで (広葉雑草2～4葉期) 但し、収穫45日前まで	50～100ml	—	▲	▲	▲	●	▲	▲	麦の葉身に軽微な白斑、白点などを生じるが、 一過性でその後の生育に影響しない。
	MCPソーダ塩	幼穂形成期 (但し収穫45日前まで)	200～300g	—	▲	●	●	▲	●	▲	気温が高い程、除草効果が安定する。分げつ抑制作用がある ため、茎数を十分確保してから散布(目安:3月上旬)

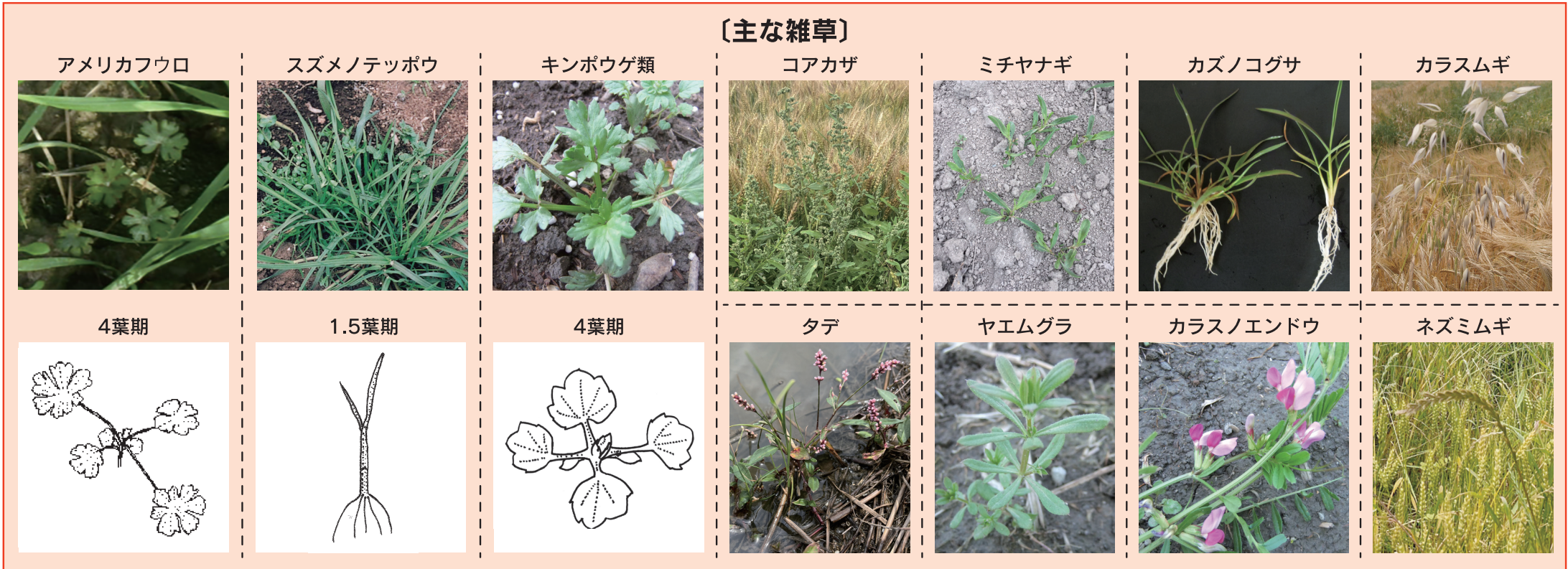
●除草剤の液剤を使用する際は、上記の10a当たりの薬量を水100ℓに希釈して使用して下さい。

コアカザ対策

- コアカザの出芽が揃い、小麦が繁茂する前の2月下旬頃にハーモニーDFを散布する。

カラスムギ・ネズミムギ対策

- カラスムギ対策のために夏場に湛水または稲作をする。
- ネズミムギ発生抑制のため、前年多発したほ場では、発生前の1月下旬～2月上旬頃の土入れ後に土壌処理剤として、トレファノサイド乳剤(200～300ml/希釈水量100ℓ/10a;収穫45日前まで)、またはトレファノサイド粒剤2.5(4～5kg/10a;収穫45日前まで)を散布する。
散布後は、後発の出芽を抑えるために土入れはしない。単年度では完全に抑えられないので複数年処理を行う必要がある。併せて、雑草の種子が成熟する前に手取り除草を行う。



※農業の安全使用と隣接する作物への飛散防止の徹底

※作業日誌・生産工程管理チェックシートは別に配布しますので、必ず記帳をお願い致します。